

「生きることは善か？」

2013 年 10 月 20 日(日)

会場：Alba Cafe (外苑前)

参加：12 名

司会・文責：堀越

1. 概要：

- ・ 12 名の少人数参加者で「生きることは善か？」をテーマに、生きることはそれだけで善となるのか、その場合にはなぜ善となり得るのかについて、ゆったりと考え、対話した。

2. 対話：

(0) テーマについて

- ・ 8 月「尊厳死」の回で「生きることは善である」という考えが提起されたが、そのときには充分に対話できなかったため今回テーマとして選定した。8 月の対話のときにも問題となったが、「生きる」という言葉には「生活(Quality of Life : QOL における Life)」と「生命(命そのもの)」の二つの意味があるため、今日の対話では「生命」の方だけを考えることとし、「生命はそれだけで善か？」として考えてみたい。

(1) 医療現場において

- ・ 医師や看護師が患者の命を救うのは、単に「法律があるから」のみに留まらずに、「生き長らえることが善であると思っているから」ではないか。

(2) 善とは何か？

- ・ 今までの議論であたかも絶対的善があるような話の流れだが本当にそんな絶対的善があるのだろうか？
→ その辺りも踏まえて、対話を続けて行きたい。

(3) 生活と生命とを切り離せるか・分けて考えられるか？

- ・ そもそも生活と生命を切り離せるのだろうか。生活のない生命を考えることは難しいのではないか。
- ・ 確かに想像は難しいが、生活の質を問えない状態（例えば、長期的に意識不明の状態）における生命は考えられる。そういう場合にも、命そのものが善かどうか（価値があるか）を考えたい。
- ・ 生活と生命を切り離すために、次の状態を考える。食べるという行為は生命維持のために必要な行為である。古代社会では食べる量が多ければ多い程に生活の質は向上したはずである。だが、現代社会では食べ過ぎると肥満や栄養過多によって生活の質は減少する場合があります、極端な場合は生命に対して危険が及ぶ場合が出てくる場合もある。生活と生命が別物であるという事例ではないか。

(4) 生命は人間のものだけが善なのか？

- ・ カエルや牛等の動物にも生命はある。これらの多様な動物の生命もそれだけで善なのだろうか。
- ・ そう考えると、人間の生命と動物の生命は必ずしも両立しない場合がある。人間は生きる（生命維持）のために他の動物を殺し食べる必要があるからである（食物連鎖の肯定）。
- ・ 人間よりも知能や体力が優れた超人間が地球に現れて人間を食物として食べるとしたら、それでも我々人間は仕方ないと諦め、「それは善である」と認められるのか。

(5) 善悪はどういう場合に成り立つのか？

- ・ 善であるかどうかを判断するためには、何らかの条件が必要ではないか。例えば、人間の意志・判断が介在した行為には善悪が付く。生命を長らえるために人間が何かをするのは、自然の範囲である（他の選択肢がある中で人間の自由な意志による選択ではない）ので、判断が不能ではないか。その論理で言えば、医療行為全てが自然の範囲ということになって判断が不能となるので、何か論理が変わらうか。
- ・ 善には「選択肢があること」が必要ではないか。「選択肢がない」場合には善悪を判断できそうもない。

(6) 再び、生命は善か？

- ・ そう考えると生活から切り離した生命を前提にしてみても、一度「生きる」選択肢を選択すると、次には「生きる」と「死ぬ」の少なくとも 2 つの選択肢が担保される（さらに生活の質が伴えばより自由度・選択肢が広がるはず）。しかし、「死ぬ」選択肢（一度死んでしまう場合）には「死」の選択肢 1 つだけしか担保されない。このような論理から「生きることは善である」と言えるのではないか。

(7) 選択肢が多いと善なのか？

- ・ では、「選択肢が多い状況を選択することは善」なのであろうか。常にそうなのであろうか。
- ・ この問いが提起されたところで、ちょうど時間となり会は終了した。

3. まとめ：

- ・ 難しいテーマであったが、少人数でじっくり思考と対話を進めることができた。後半に提起された「生命には生と死の少なくとも 2 つの選択肢があるが故に善なのではないか」という論理は興味深かった。もう少し吟味してみたい。
- ・ 終盤に提起された「選択肢が多いと善なのか？」については、次の対話の機会を待ちたい。

以上